

厚生労働科学研究費補助金
(地球規模保健課題解決推進のための行政施策に関する研究事業)
総括研究報告書

国際保健分野における取り残された課題の分析及び我が国の国際保健施策の立案に資する研究—アジアにおけるジェンダー、及びグローバル・ケアチェーンの国際比較の視点から

研究代表 是川夕 国立社会保障・人口問題研究所

要旨

本研究は、地球規模での少子高齢化や国境を越えた人の移動といった新たな人口動向に対し、ジェンダーの視点から従来の国際保健分野で見過ごされてきた課題、特に女性の社会進出に伴う私的領域でのケアワーク縮小 (Global Care Deficit)、グローバル・ケア・チェーン、工業化と出生力低下、生殖補助医療のアクセス格差といった問題を析出し、国際保健施策の立案に資することを目的とするものである。初年度は、アジア各国におけるケアの社会化、生殖補助医療の現状、移民の健康問題などについてジェンダーの視点から調査・分析を行い課題を同定した。これらの成果を通じて、国際保健における未解決課題の早期同定、ケア不足やリプロダクティブ・ヘルス、移住労働者の健康に関する処方箋を明らかにし、日本が国際会議等で新たなイニシアティブをとるためのフレームワークを提示することが期待され、次年度には具体的な政策提言を行う予定である。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

是川夕 国立社会保障・人口問題研究所
国際関係部 部長*
竹内麻貴 国立社会保障・人口問題研究所
国際関係部第2室長**
林玲子 国立社会保障・人口問題研究所
所長
小島克久 国立社会保障・人口問題
研究所 副所長
岩澤美帆 国立社会保障・人口問題研究所
人口動向研究部 部長
守泉理恵 国立社会保障・人口問題研究所
人口動向研究部 第1室長
*研究代表者 (令和7年1月23日～)
**研究代表者 (令和6年4月1日～令和7
年1月22日迄)

<研究全体の目的>

本研究は、地球規模で広がる少子高齢化、国境を越えた人の移動といった新たな人口動向に対し、ジェンダーの視点を切り口に従来の国際保健分野に取り残された課題を析出し、国際保健施策の立案に資することを目的とする。

従来の国際保健の枠組みは、保健課題解決のため、既知の医療・保健サービス技術をどのように中低所得国へ普及させるかと

いったサービス提供に注目してきたといえる。他方で、途上国、新興国を始め工業化の過程において女性の社会進出が進む中で、不足する医療・保健サービスを伝統的に補強していた、私的領域において女性が行ってきた育児、介護などケアワークの規模の縮小といった現象が見られ始めている。これは現在グローバルなケアの不足 (global care deficit) として知られている。

こうしたケアの不足は看護師などの専門職の供給とも連動したものであることが知られている。そのため、国際保健分野における諸課題を解決するための安定的なケアワーク供給体制の構築のためには、ジェンダーの視点は必要不可欠なものといえる。例えば、ケア役割を女性に依存するジェンダー構造は、外国人メイドを始め、医師、看護師などの医療専門職、福祉介護職、保育士、乳母など、豊かな国の女性が貧しい国の女性のケアワークに依存するグローバル・ケア・チェーンを生み出している。

また先行研究は、私的領域におけるケアワークの縮小を放置したまま工業化を推し進めた場合、急激な出生力の低下といった形で社会の再生産能力が低下することを明らかにしてきた。これは日本のみならず、韓国、中国、台湾、タイ、シンガポールといった多くのアジア諸国がいま直面している課題である。そうした中、これまで国際保健分野においてジェンダーとの関連でも

つとも重点的に扱われてきたリプロダクティブ・ヘルスにおいても、近年、新たな動向が見られる。生殖補助医療（不妊治療）の発展は、女性のリプロダクティブ・ライツを拡大するものといえるが、こうした医療は概して高額であり、そのアクセスビリティには経済的格差が伴っている。また、こうした技術の進展の背後には、貧困層、あるいは途上国の女性による代理母業など、再生産活動のグローバルな格差を伴った進展といった現象もみられる。

本研究はこうした視点に基づき、初年度において、国際保健分野の諸課題をジェンダーの視点から再検討することを通じて問題を同定し、次年度においてそれに向けた政策提言を行うことを目的とする。

<研究の実施結果、及び概要>

① ジェンダーの視点による少子高齢化社会でのケアの社会化における国際的課題の同定（是川、林、小島、守泉）

▽令和6年度

・ケアの社会化に関してアジアの状況を明らかにするため、アジア各国の研究協力者のネットワークを活用した半構造化インタビューによる、育児、介護等、家庭内のケアワークの現状把握を試みた（対象候補国：インドネシア、マレーシア、インド、イラン、バングラデシュ、韓国、台湾、オーストラリア、シンガポール、タイ等）（竹内、林、守泉、小島）。

・ケア提供者における保健課題の把握、及び半構造化インタビュー調査実施に必要な情報を収集した。特に、ケア提供者のワーク・ライフ・バランスとwell-beingに関する資料をサーベイした（竹内）。

・国外の少子高齢化施策の情報収集。少子化施策についてはアジアを、高齢化施策（NCD対策、介護施策）に関してはアジア・アフリカを中心に、情報を収集した（林）。

・日本、韓国、中国の少子化と少子化対策の進展に関する情報収集。特に保育と育児休業に関する政策や関連データの収集、これらの政策テーマについて分析した先行研究のサーベイを行った（守泉）。

・台湾の家庭で雇用される外国人介護労働者の現状と雇用先での家庭内の介護負担の影響のジェンダー構造の分析を行った。台湾の家庭で就労する外国人介護労働者は、女性が97～99%を占める。彼らの処遇の男女差を見ると、賃金は男女差が非常に少なくみえる。ただし、経常性賃金（基本給）は男性が若干高く、超過勤務手当などは女性の方が高い。労働時間は女性の方が長い。また、彼らへの評価内容にも男女差がある。

男性の場合は介護そのものや家族の時間的負担ができたことが評価されている。女性の場合は、男性で評価される項目に加え、家事を手伝ってもらうことでも評価されている。つまり、女性の場合、介護だけでなく家事の面でも期待されている。女性がほとんどを占める外国人介護労働者でも、処遇面での男女差があることを明らかにした。（小島）。

② 少子化社会における生殖補助医療（不妊治療）に関する国際的課題の同定（林、岩澤）

▽令和6年度

・生殖補助医療に関し、インド、シンガポール等アジア各国の研究協力者を通じた現地・オンラインヒアリング等により、各国、特にアジアにおける生殖補助医療の現状に関する情報を収集した（林）。

・低出生社会におけるリプロダクティブ・ヘルスの検討。リプロダクティブ・ヘルスやジェンダー革命の進展における課題は、人口転換や産業化の段階によって変わる。人口転換の観点から各国の状況を整理し、どのようなデータや変数でその状況を把握できるか、ジェンダー変容や少子化との関わりを検討した（岩澤）。

③ ジェンダーとグローバル・ケアチェーンの視点による移民に関する保健課題の研究（是川、林）

▽令和6年度

・新型コロナ感染死亡率に見る移民の健康問題の分析。人口動態調査個票データを用い、日本国内での新型コロナ感染による国籍別死亡率を推定した。外国人／移民女性はホスト国において医療関係など、各種ケアワークに従事することが多いとされ、感染／死亡率が高いことが予想されるが、そうしたケースが日本においてどの程度妥当なのか明らかにした（是川）。

・保健・介護人材の国際移動の現状把握。送出国・受入国双方における国境を超える保健・介護人材の統計情報、関連する施策についての情報を収集した（林）。

・アジアにおける移民の健康に係る国際機関、国際ネットワークについての情報収集、及び実態把握と共に適切な政策枠組みを提案に向け、国際移住機関（IOM）と共に研究会「Asia in Motion」を開催した（林、是川）。

<結論>

本研究は、地球規模で進行する少子高齢化や国際的な人の移動といった新たな人口動向に対し、ジェンダーの視点を導入することで、従来の国際保健の枠組みでは見過

ごされてきた課題を浮き彫りにし、具体的な政策立案に貢献することを目指したものである。初年度の研究活動を通じて、アジア各国におけるインフォーマルなケアワークの不足 (Global Care Deficit) の実態、生殖補助医療の利用状況とそれに伴う倫理的・経済的課題、そしてグローバル・ケア・チェーンを構成する移住労働者の健康問題や、保健・介護人材の国際移動に関するガバナンスの課題が、ジェンダー構造と深く結びついていることが具体的に同定された。

これらの成果は、国際保健分野における潜在的な課題の早期発見に繋がり、日本が国際的な議論をリードするための新たな視座を提供するものである。将来的には、ケアの社会化、リプロダクティブ・ヘルスにおける公正なアクセス、移住労働者の権利擁護といった喫緊の課題に対し、具体的な処方箋を提示することが期待される。本研究は、これらの知見を基に、次年度において具体的な政策提言を行い、より包括的でジェンダー平等に配慮した国際保健施策の実現に寄与することを目指す。

<研究により得られた成果の今後の活用・提供>

本研究により、国際保健分野における取り残された課題の早期同定、及び今後、わが国が国際会議などの場で新たなイニシアティブをとっていく際の新たなフレームワークを提示することが期待できる。具体的には、以下の効果が期待できる。

1. アジア各国において、少子高齢化により不足が懸念されるインフォーマル領域におけるケアワークの不足 (Global Care Deficit) について、現在直面している課題が明らかになるとともに、これを今後、社会化する場合の課題、及び処方箋を明らかにすることができる。

2. アジア各国で急速に進む少子化において、生殖補助医療の活用状況やその課題、及びリプロダクティブ・ヘルスをめぐる現状、及び今後の課題、及び処方箋について明らかにすることができる。

グローバル・ケア・チェーンを担う移住労働者についてミクロな健康状態や、保健・介護人材の国際的な移動に関する国際的なガバナンスの在り方について課題と処方箋を明らかにすることができる。

III. 研究成果の刊行に関する一覧表
学会発表

1. Reiko Hayashi, "Policy responses to low fertility in Japan", Ministry of He

alth / Viet Nam Population Authority (VNPA), International Workshop on Policy consultation and solutions to prevent the trend of low fertility, Melia Hotel, Hanoi, Viet Nam (2024.8.28)

2. Reiko Hayashi, "Low Fertility in Asia and the Role of Assisted Reproductive Technology (ART)", The 5th KIH ASA-IPSS Annual Policy Forum "Low TFR, Aging Population, Policy Responses", Korea Institute for Health and Social Affairs, Sejong, The Republic of Korea (2024.9.5)
3. Reiko Hayashi, "Transformation of population problems and policies: Past and Future", Hanyang Institute for Population and Policy Research Inaugural Symposium, Hanyang University Central Library, Seoul, South Korea (2024.10.18) 林玲子「アジアの少子化と生殖補助医療の課題」グローバルヘルス合同大会 2024、くくる糸満、沖縄県糸満市 (2024.11.17)
4. Iwasawa, Miho, Beppu, Motomi, Yoda, Shohei, Korekawa, Yu, Moriizumi, Rie, Yoshida, Wataru, Ishii, Futoshi "Population Projections for Japan: Summary of the 2023 revision," Annual Meeting of Population Association of America, April 17-20, Columbus.(2024.4.18)
5. Iwasawa, M., M. Beppu, R. Moriizumi "Population Projections for Japan: What Happens to Aging Society?" 6th Asian Population Association Conference, Kathmandu, Nepal (2024.11.27-30)
6. Iwasawa, Miho, Beppu, Motomi, Yoda, Shohei, Korekawa, Yu, Moriizumi, Rie, Yoshida, Wataru, Ishii, Futoshi "Population Projections for Japan: Summary of the 2023 revision," Annual Meeting of Population Association of America, April 17-20, Columbus.(2024.4.18)
7. Moriizumi, Rie "Perception Change of Japan's Young Generation on Marriage and Fertility and Countermeasures of Low Birthrate" 2024 Korea-Japan-China Population Forum (hosted by Ministry of Health and Welfare (MOHW) of Korea and organized by Korea Human Resource Development Institute for Health and Welfare (KOHI)), Seoul Dragon City Hotel (オンライン参加, 2024.9.3)
8. 守泉理恵「日本の少子化対策の変遷と

課題：最近 10 年の動きを中心に」人口学研究会第 663 回定例会（オンライン）（2024.10.19）

9. Iwasawa, M., M. Beppu, R. Moriizumi "Population Projections for Japan: What Happens to Aging Society?" 6th Asian Population Association Conference, Kathmandu, Nepal (2024.11.27-30)
10. Moriizumi, Rie "Low Fertility in Japan: Issues in Recent Years" The 1st PRI/KIPF Seminar, Ministry of Finance, Conference Room (2025.1.10)

論文発表

1. 岩澤美帆(2024)「少子社会における「時間」をめぐる困難を考える」『人口問題研究』第 80 巻第 4 号, pp. 413-423.
2. 守泉理恵「日本・中国・韓国の少子化の進展とその政策対応に関する国際比較」『人口問題研究』第80巻第2号, pp.1-26 (2024.6)

知的財産権の出願・登録状況
なし

<健康危険情報、及び倫理面に関する取組
>
本研究調査はいずれも直接、個人を対象としたものではなく、倫理面で特段の配慮が必要な点はない。

<研究成果による知的財産権の出願・取得
状況：知的財産の内容、種類、番号、出願
年月日、取得年月日、権利者>
該当なし